

[説明事項] 常滑市地域公共交通協議会について

地域公共交通協議会を設置する背景

地方の公共交通は大ピンチ

- 自家用車の普及、少子高齢化と人口減少により、**地方では公共交通の利用者が減少**しています。
- これまで交通事業者は、利用者が多い都市部での収益や、交通事業以外の収益をもとに、地方の公共交通を維持してきましたが、2020年からのコロナ禍により、都市部の**通勤需要や観光需要が大きく減少**し、交通事業者の経営状況は悪化しています。
- バスやタクシーの運転手不足も深刻で、事業を維持するため定年延長などの対応をとっています。
- 最近ではウクライナ情勢の影響から、燃料価格も上昇しており**事業者の負担が高まっています**。
- 長く厳しい環境が続いてきたところに、追い打ちがかけられ**地方の公共交通は存亡の危機**をむかえています。

常滑市の状況

- 常滑市はいわゆる「クルマ社会」で、市内や近隣市町への通勤や日常の買い物・通院は**自家用車が中心**です。
- 鉄道は、通勤・通学で利用する市民も多く、空港アクセス鉄道でもあるため、過疎地域のような「維持困難」という状況ではありませんが、**新型コロナの影響で利用者が大きく減少**しています。
- バスは、自家用車に比べて、本数や所要時間の面で不利であるため、利用者は多くありません。
- しかし、今後は免許返納者が増加することや、コロナ後の地域活性化のために観光客の足の確保が重要なことから、**路線維持や利用促進の方策の検討が必要**です。
- タクシーは、鉄道やバスの利用が難しい高齢者の移動を支える**重要な公共交通機関**で、住民が生活に必要な移動を確保するための、**地域の公共交通の「最後の砦」**です。
- 常滑市では、ワクチン接種の際、高齢者の移動を担うなど、大きな役割を果たしました。
- 一方で、鉄道事業者やバス事業者に比べ、事業規模が小さいため、新型コロナや燃料価格高騰の影響や人手不足など厳しい経営環境が続いています。

なぜ地域公共交通協議会が必要か

- これまでのように交通事業者に頼るのでは、**住民や観光客の移動手段の維持は極めて困難**です。
- 今後は、行政が運行するコミュニティバスに加え、福祉輸送や商業施設が運行するシャトルバスなど、**地域のあらゆる資源を総動員**して取り組むことが求められます。
- また、MaaS(Mobility as a Service)などの新しい考え方を取り入れた利用促進策や、自動運転・空飛ぶクルマなどの最先端技術が普及した未来を見据えることも必要です
- このような取り組みには、様々な関係者の合意形成が重要ですが、**個々に協議、調整していくことは大変**です。
- そこで、関係者が協議や情報共有をし、地域の公共交通について一体となって取り組んでいくため、当事者が**一堂に会する地域公共交通協議会が必要**になります。

取り組みの進め方について

- 地域公共交通協議会で、今後の常滑市の公共交通のあり方や取り組みの方針、実施する事業などを盛り込んだ「**常滑市地域公共交通計画**」(2024~28年度)を作成します。
- 地域公共交通計画は、**地域にとって望ましい地域旅客運送サービス**の姿を明らかにするマスタープランで、**2023年度まで2か年**かけて作成します。
- 今年度は、現状把握や課題整理を進め、年度末までに**計画の基本的な方向性をとりまとめる予定**です。

常滑市の公共交通の状況

市勢



地理院地図を加工

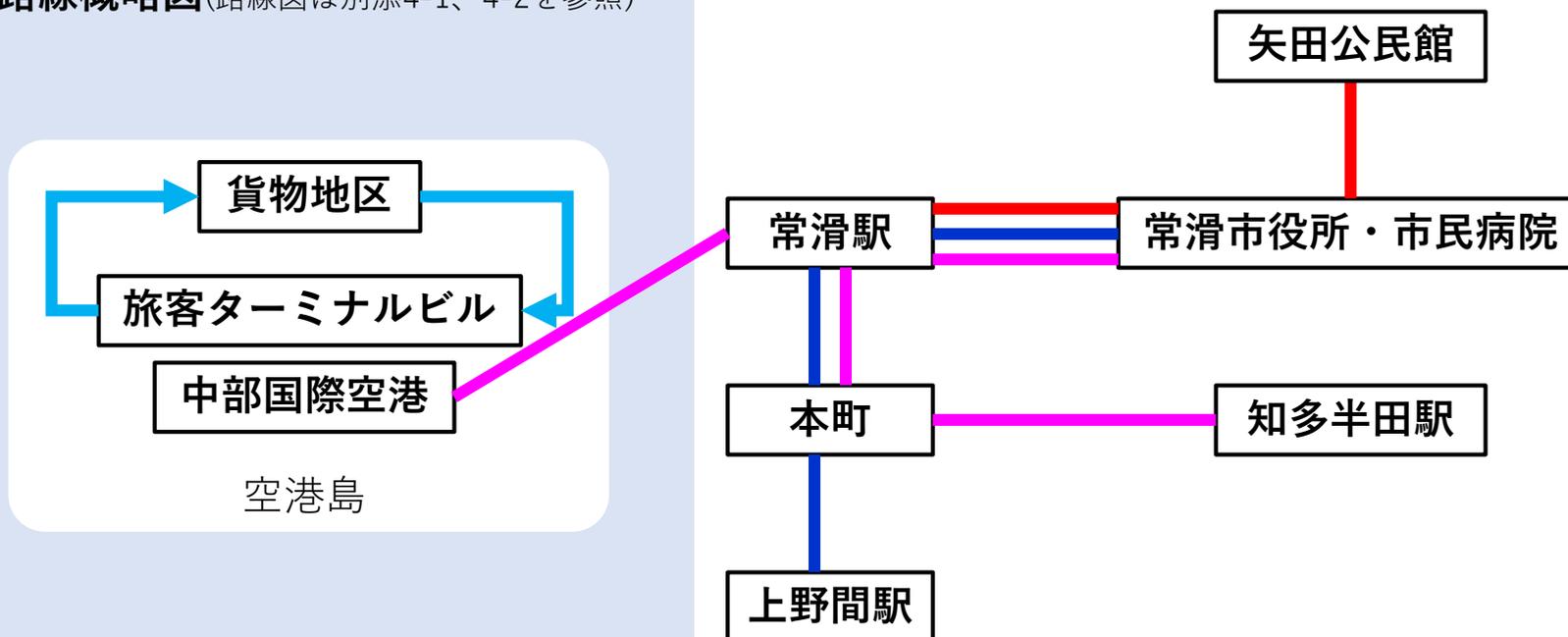
- 知多半島の西海岸に位置し、東西 6 km、南北15kmと **南北に細長い地形**です。
- 面積は知多半島 5 市 5 町で最大の **55.90km²**です。
- 北は知多市、東は阿久比町、半田市、武豊町、南は美浜町に接しています。
- 沖合には2005年に中部国際空港が開港しました。
- 合併前の市町村ごとに6つの地区に分かれています。
- 市の中部は人口が増加傾向ですが、北部・南部では人口減少や少子高齢化が進んでいます。

| 地区 | 人口(人) | 平均年齢 | 0~14歳人口 (割合) | 65歳以上人口 (割合) |
|-------|---------------|---------------|-----------------|-----------------|
| ① 三和 | 7,288 | 49.76歳 | 11.70% | 34.03% |
| ② 大野 | 1,410 | 51.01歳 | 8.87% | 33.33% |
| ③ 鬼崎 | 17,674 | 43.72歳 | 14.44% | 22.76% |
| ④ 常滑 | 21,832 | 42.34歳 | 17.01% | 21.66% |
| ⑤ 西浦 | 6,929 | 50.30歳 | 10.32% | 34.51% |
| ⑥ 小鈴谷 | 3,356 | 50.24歳 | 10.55% | 33.58% |
| 合計 | 58,489 | 45.29歳 | 14.21% | 26.02% |

路線バス・コミュニティバス

- ◆ **知多乗合 半田・常滑線** 有料・対距離運賃
 - ・ 市中部を東西に横断し、常滑駅～青山駅(半田市)～知多半田駅を結びます。
 - ・ 常滑駅からは、常滑市役所・市民病院方面と中部国際空港方面に直通します。
- ◆ **知多乗合 常滑南部線** 有料・対距離運賃
 - ・ 市中部から南部を縦断し、常滑市役所・市民病院～常滑駅～上野間駅(美浜町)を結びます。
- ◆ **知多乗合 貨物地区循環線** 有料・対距離運賃
 - ・ 中部国際空港の旅客ターミナルと空港島北部の貨物地区を結びます。
- ◆ **常滑市 北部バス** 無料
 - ・ 鉄道や路線バスの空白地域である市北部と常滑市役所・市民病院、常滑駅を結びます。

バス路線概略図(路線図は別添4-1、4-2を参照)



タクシー



地理院地図を加工

- 市内には**サンレー交通**、**名鉄知多タクシー**の営業所があります。
 - ▶サンレー交通 常滑市鯉江本町(市中部)
 - ▶名鉄知多タクシー 常滑市坂井字うつ大坂(市南部)
- このほか、**安全タクシー**、**つばめタクシー**が常滑駅や市役所・市民病院に乗り入れています。



その他の交通機関

◆CHITA CATプロジェクト シャトルバス

- イオンモール常滑と中部国際空港の間を結びます。
- コロナ禍の影響で特にインバウンドの利用が大きく減少し、現在は毎週日曜日のみの運行です。

◆青海地区ボランティア輸送

- 市北部にある青海団地は丘の上であり、勾配が多い住宅地です。
- 住民の高齢化が進み、買い物や病院への往来に苦勞する人が増えています。
- 地域のボランティア団体が乗用車を運行し、定時定路線型のボランティア輸送が行われています。

◆多屋団地・松原地区住民移動支援

- いずれもバス路線から離れた地域で、住民の高齢化も進んでいます。
- 社会福祉協議会がタクシー事業者に委託し、住民の輸送を支援しています。

このほか市内には、

- 各地と中部国際空港を直結する空港アクセスバス
 - 三重県と中部国際空港を結ぶ高速船
 - 愛知県国際展示場での大規模イベント時に運行されるシャトルバス など
- がありますが、現時点では「地域の公共交通」との位置づけをしておらず、本協議会では取扱わない予定です。

今後のスケジュールについて

交通協議会の開催予定

- 2022年度は今回を含めて**4回**、2023年度は**2～3回**の開催を予定しています。
- このほか協議が必要なときに、臨時に会議を招集する場合があります。

| | 日程 | 議題(予定) |
|---------------|-------------|--|
| 2022年度 | | |
| 第1回 | 2022年6月23日 | <ul style="list-style-type: none">• 常滑市地域公共交通協議会について• 常滑市地域公共交通計画の作成について• (仮称)ボートレースファンバスの運行再開とそれにもなう知多乗合・常滑南部線の廃止について |
| 第2回 | 2022年8月下旬頃 | <ul style="list-style-type: none">• 地域公共交通計画作成に関する調査について• (仮称)ボートレースファンバスの詳細について など |
| 第3回 | 2022年11～12月 | <ul style="list-style-type: none">• 地域公共交通計画作成に関する調査の中間報告について など |
| 第4回 | 2023年2～3月 | <ul style="list-style-type: none">• 地域公共交通計画の基本方針(案)について など |
| 2023年度 | | |
| 2～3回開催予定 | | |